

船舶事故調査報告書

平成30年1月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成29年8月13日 23時00分ごろ
発生場所	香川県直島町の宮浦港沖2号防波堤 宮浦港沖2号防波堤北灯台から真方位165° 160m付近 (概位 北緯34° 27.3′ 東経133° 58.3′)
事故の概要	プレジャーボート ^{しやうごう} 翔号-V ^{ファイブ} は、東進中、防波堤に衝突した。
事故調査の経過	平成29年8月17日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 翔号-V、5トン未満（8.14m）
船舶番号、船舶所有者等	260-42421岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定 同乗者A
負傷者	重傷 1人（同乗者A）、軽傷 1人（船長）
損傷	船首部外板に破口等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、船長が役員を務める民間会社の従業員等（以下「同乗者」という。）10人を乗せ、花火大会の見物を終えて香川県高松市高松港を出航し、岡山県玉野市洪川の岸壁で同乗者8人を降ろした後、同県岡山市西大寺港の係留場所に向け、約15ノットの対地速力で、手動操舵により東進していた。</p> <p>船長は、操舵区画で椅子に腰を掛けて操船に当たっていたところ、眠気を感じたが、帰港するまであと約30分であり、これまで運航中に居眠りに陥ったことがなかったので、眠気を我慢できると思った。</p> <p>本船は、船長が、同じ姿勢で操船を続けていたところ、玉野市^{いぬもどり}犬戻鼻南東方沖に至った頃、居眠りに陥り、変針予定場所を通過し、宮浦港沖2号防波堤に衝突した。</p> <p>船長は、本船を直島町宮浦港まで操船し、119番通報を行うとともに友人に助けを求めた。</p> <p>船長は、来援した友人の船で、同乗者2人と共に玉野市宇野港まで移送され、同乗者A及び船長が救急車で別々の病院に搬送され、同乗者Aが右鎖骨骨幹部骨折、船長が両側大腿打撲傷と診断された。</p> <p>船長は、10時ごろから19時ごろまで玉野市の海水浴場で海水浴等を行い、その後高松港に移動して花火大会の見物を行っていたので、同港出航時から疲れを感じており、眠気を感じた時に本船を停止して休憩すれば良かったと本事故後に思った。</p>

	<p>本船は、操縦ハンドルの位置が椅子に腰を掛けて操船する位置にあり、立ち上がって操船することが困難な構造であった。</p> <p>同乗者2人は、本事故時、後部甲板にある固定のベンチに腰を掛けていた。</p>
分析	<p>本船は、犬戻鼻南東方沖を東進中、船長が居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過し、宮浦港沖2号防波堤に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、海水浴、花火大会の見物等を行って疲れていたことから、眠気を感じた後も操船を続けるうちに居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、犬戻鼻南東方沖を東進中、船長が居眠りに陥ったため、変針予定場所を通過し、宮浦港沖2号防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操船中に眠気を感じた際には、停船して休憩するなどして居眠り防止に努めること。